

第1章 理念・目的

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		Alt+Enterで箇条書きに
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか								
a	◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神、教育理念、使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	本大学で創生された学術研究成果を、良質な出版物によって広く社会に公開することを目的として、2011年4月に明治大学出版会(以下「出版会」という。)が設置された。出版会は出版活動を通じて、本大学の教育、研究活動の活性化を図ると共に、アカデミックステータスを向上させることを目的とし、良質な図書の刊行を通じ、本学の研究成果を社会へ還元することを目指している。 出版会の目的は、「明治大学出版会規程」(資料1-51-1、第2条)に、「本大学の学術研究成果を出版物として広く社会に公開することにより、本大学の教育研究活動の活性化を図るとともに、学術・文化の振興及び社会の発展に寄与すること」と明記されている。 上述の目的の下に、「専門的研究に基づく学術的教養書」のシリーズとして、2011年度に「明治大学リパティブックス」を発刊し、2013年度は2冊を刊行した。(資料51-1-2～3) 今後も同様の出版活動を展開する。このことから、理念・目的は適切に設定され、実行されていると言える。 出版会は大学出版会としては後発であることを意識し、上述の「明治大学リパティブックス」に加え、2013年度は新たに「La science sauvage de poche」を発刊した。(資料51-1-4～5) また、「明治大学リパティブックス」と「La science sauvage de poche」は著名なブックデザイナーによりシリーズデザインを一新し、他の大学出版との差別化を図った。	2013年度は、以下の2冊を刊行した。 ○明治大学リパティブックス 『世論調査を読む—Q&Aから見る日本人の<意識>』 (井田正道・政治経済学部教授著) 『オペラは脚本[リブレット]から』 (辻昌宏・経営学部教授著) ○La science sauvage de poche 『インヴェンション』 (高山宏・国際日本学部教授、中沢新一・研究・知財戦略機構特任教授著) 『贈与の哲学』 (岩野卓司・法学部教授著) これらは新聞等の書評(資料1-51-6)で取り上げられるなど、学外でも高く評価されている。	学内研究者による企画立案や執筆者の発掘に、さらなる工夫が必要がある。	年間を通じて編集・制作の作業が一時期に片寄せらぬように完成原稿の督促など、計画的に作業を進める。	企画募集のためのチラシを教員に配布する。学内研究者の研究やシンポジウム、イベント、学内諸施設等を取材し、執筆者の発掘に努める。	刊行が継続できるよう、企画立案を積極的に行うほか、継続して学内研究者による様々な活動を取材する。	資料10-51-1 本学ホームページ「学部等自己点検・評価報告書」 http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2012/2.html
b	●当該付属機関・委員会の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	出版会の目的は、「明治大学出版会規程」(資料1-51-1、第2条)に、「本大学の学術研究成果を出版物として広く社会に公開することにより、本大学の教育研究活動の活性化を図るとともに、学術・文化の振興及び社会の発展に寄与すること」と明記している。	上記のとおり、本出版会の理念を反映した書籍4冊を刊行した。		刊行が継続できるよう、企画立案を積極的に行うほか、学内研究者の研究やシンポジウム、イベント、学内諸施設等を取材し、執筆者の発掘に努める。			
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか								
a	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること【約150字】	出版会の理念や目的は、出版会ホームページ(資料1-51-7)を通じて公表している。 また運営委員、編集委員が学内の教員へ積極的に執筆を呼びかける等、執筆者の発掘に努めている。	設立から3年を経過し、出版会の理念や目的が教職員間に浸透しており、持ち込み企画件数が2012年度7件から2013年度10件に増加した。		引き続き出版会の理念や目的を学内外にアピールする。 また企画募集のためのチラシ配布をはじめとする執筆者発掘のための様々な広報を進める。			資料1-51-7 明治大学出版会ホームページ「明治大学出版会について」 http://www.meiji.ac.jp/press/outline/gaiyou.html
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか								
a	●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	出版会編集委員会(以下、「編集委員会」という。)において、刊行図書の検討などの際に、出版会の理念が適切に実現されていることを検証した上で、刊行を決定している。(資料1-51-8～10) 刊行物に関する編集委員会内規を逸脱せぬ範囲で新機軸を出せないか、随時検討をしている。	編集委員会において、刊行企画検討の際に、企画書に不備がある場合は再提出を求めると、出版会の理念が適切に実現されていることを検証しつつ、慎重に審議している。		今後は持ち込み企画の数が増加すると見込まれるので、応募企画に対しては左記の手順を厳格に踏み、出版会の理念が適切に実現されているかを編集委員会において慎重に審議し、刊行物の質の向上を図る。			資料1-51-8 明治大学出版会編集委員会議事録 第1回 2013年5月8日開催 議題1「柴崎文一教授の刊行企画について」 議題2「今後の刊行企画について」 資料1-51-9 2013年6月12日開催 議題5「刊行企画の検討について」 資料1-51-10 2014年3月6日開催 議題1「『国際比較から見た日本の社会政策』の素読み報告について」

第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	出版会長は運営委員長を、出版会副会長は編集委員長を兼務している。出版会のもとには「明治大学出版会規程」及び「明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ」に基づき、運営委員会、編集委員会及び執行部会が設置されている。(資料2-51-1 第6、10条、資料2-51-2 第3条) 理念・目的との適合性としては、運営委員会は専任教員を中心に選出されるが、教務担当常勤理事及び学務担当常勤理事がオブザーバーとして会議に出席することで、大学の方針に沿って適切に運営されているかを検証している。編集委員会は、学外有識者を委員に加えることで、学外での評価に耐えうる出版企画を検討する体制となっている。学術の進展や社会の要請と適合性としては、編集委員会が検討した刊行企画に対して、運営委員会が学術の進展や社会の要請への適合性を検証できるよう組織されている。	2013年度は運営委員会6回、編集委員会3回を開催した。 2013年度の主な成果は以下のとおりである。 ・委託業者の契約内容見直し 前年度末に制作請負契約を終了し、独自の編集による制作を開始した。 ・「明治大学リパティブックス」のデザインを変更した。		事業の実施状況を鑑み、必要があれば組織の構成を見直す。		資料10-51-1 本学ホームページ 「学部等自己点検・評価報告書」 http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2012/2.html
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	運営委員会及び編集委員会において、会議開催時に検証を行っているほか、自己点検・評価報告書や次年度計画書作成に際して、総合的な検証を行っている。 2013年度は、定価・部数等の決定の迅速化のため、新たに執行部会を設置した。	執行部会を設置したことにより、定価・部数等の決定が迅速化された。		事業の実施状況を鑑み、必要があれば組織の構成を見直す。		

第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか						
a ● 学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を、当該大学の理念、目的を踏まえて、定めているか。	良質の刊行物の実績を通じて教育・研究成果を社会に発信する拠点としての出版会は、学術の社会的還元を醸成する役割を担う。 教育研究環境整備に関する方針については、出版会長、出版会副会長及び事務局間で常時検討している。	出版会の刊行物が増えることにより、教職員や学生の認知度が上がっている。	出版会執務室の認知度が低い。	出版会の刊行体制のさらなる改善を模索する。	出版会執務室の認知度を高めるため、ホームページ等での広報を行う。	
(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか						
a ● 方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	2012年4月にアカデミーコモン7階に出版会執務室を設置した。これにより最低限の編集作業の環境が整った。	左記執務室の設置により、執筆者と事務局が原稿内容を随時打合せることが可能となった。	執務室が狭隘なため編集委員会を開催することができない。編集委員会の審議内容と編集作業は密接に関係しているため、面積の拡充が求められる。	キャンパス内に出版会執務室がある利点を生かし、引き続き執筆者と事務局の綿密な連絡体制を継続する。	2014年度に出版会執務室がアカデミーコモン内で移転する。これに伴い面積が拡大する予定なので、移転後は執務室で編集委員会を開催したい。	
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか						
a ● 学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制を備えているか。 ● 教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	2012年9月から、編集経験が豊富な特別嘱託職員が編集担当者として配置された。	編集担当者が執筆者との緊密な連絡を行うことが可能になった。		出版会の規模が拡大し、刊行点数の増加が予想されるため、編集スタッフの増員も検討したい。		
(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか						
a ① 研究倫理に関する学内規程の整備状況 ② 研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性	研究倫理に関する学内規程の整備状況としては、執筆者と出版会間で締結する出版契約において、著作権の取扱い等を定めている。 研究倫理に関する問題が発生した場合は運営委員会が対応することによって、学内審査機関の設置・運営の適切性を確保している。	著作権や出典明記の問題等、研究倫理の問題発生を防ぐ体制を整えた。2013年度刊行書については、これらの問題は発生しなかった。		情報・メディア社会の変遷なども考慮しつつ、引き続き新たな研究倫理の問題が発生する事態に備えるための見直しを検討する。		

第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか							
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	出版会の目的は、「明治大学出版会規程」(資料8-51-1, 第2条)に、「本大学の学術研究成果を出版物として広く社会に公開することにより、本大学の教育研究活動の活性化を図るとともに、学術・文化の振興及び社会の発展に寄与すること」と定めている。 この方針については、出版会ホームページなどで公開している。	出版会の方針に基づき、2013年度は4冊の書籍を刊行したが(資料51-8-2~5)、これにより出版会の既刊は9冊となり、徐々に学内外での出版会の認知度が上がっている。		方針についてはホームページや企画募集チラシ等で、教職員への周知に努める。			資料10-51-1 本学ホームページ 「学部等自己点検・評価報告書」 http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2012/2.html
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか							
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	2013年度は上述の4冊を刊行した。 刊行書籍については、書評依頼や広告掲載を通じてを広報を行っている。 2013年3月に刊行した『MEIDAI BOOK NAVI 2013』(非売品)を、前年度の卒業式に引き続き、入学式で配布したほか、全国の三省堂ほかで配布した。数店で本書の内容に基づいたブックフェアが開催された。 また、日本経済新聞、朝日新聞等(資料8-51-6~8)への広告掲出を実施したほか、本出版会刊行の『登戸研究所<秘密戦>の世界』に関連した映画「陸軍登戸研究所」が公開されたことに合わせ、上映館窓口での委託販売等を実施した。(資料8-51-9) また、2014年4月には東京堂書店において『インヴェンション』関連トークイベントを開催、5月から6月にはリバティアカデミーで著者による関連講座「オペラは脚本(リブレット)から」が開講された。(資料8-51-10~11)	上述の4冊を刊行し、関連イベントや講座を開講するなど、学内外への広報を行ったことにより、研究成果の社会への還元を果たした。		2014年度も広告掲載等で広報に努める。 また2014年度秋学期にリバティアカデミーで関連講座を開講する。			資料8-51-6 2013年10月13日日本経済新聞朝刊広告 資料8-51-7 2014年2月22日朝日新聞夕刊広告 資料8-51-8 2014年3月15日朝日新聞夕刊広告 資料8-51-9 明治大学出版会 『陸軍登戸研究所<秘密戦>の世界』 映画上映会場販売実績表 資料8-51-10 『インヴェンション』 刊行記念トークイベント案内(2014年4月25日開催) 資料8-51-11 明治大学リバティアカデミー2014年度前期開設講座総合パンフレットコピー
b (検証システムと改善実績) ●社会連携・社会貢献の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。	「明治大学出版会規程」及び「明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ」に基づき、運営委員会、編集委員会及び執行部会を設置し、組織の権限や手続を規定している。(資料8-51-1 第6, 10条, 資料8-51-12 第3条)	刊行物については、社会貢献という観点から大学出版会にふさわしい内容・テーマ・価格・点数など、左記委員会規定に則って効率よく決定することが可能となった。		引き続き良質の書籍を刊行するための体制を堅持する。			資料8-51-12 明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ

第9章 管理運営・財務 1. 管理運営

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。</p>							
a	<p>●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。</p>	<p>出版会内の意思決定プロセスについては、「明治大学出版会規程」(資料9-51-1, 第8条, 第12条), 「明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ」(資料9-51-2, 第2条) 「明治大学出版会運営内規」(資料9-51-3, 第3条), 「明治大学出版会編集方針内規」(資料9-51-4, 第3条)に定めている。 委員会の権限と責任については、「明治大学出版会規程」(資料9-51-2, 第5条, 第9条)に定めている。 これらについて、教職員に対してホームページ等を通じて周知している。</p>	<p>「明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ」(資料9-51-2)の制定により、意思決定の迅速化が実現した。</p>		<p>今後も出版会の事業内容や状況に応じて随時見直しを行う。</p>		<p>資料10-51-1 本学ホームページ 「学部等自己点検・評価報告書」 http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2012/2.html</p>
<p>(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか</p>							
a	<p>◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用</p>	<p>関連法令に基づき、「明治大学出版会運営内規」(資料9-51-3), 「明治大学出版会編集方針内規」(資料9-51-4)が制定されている。その後、必要に応じて改正するなど(資料9-51-5), 適切な運用を行っている。 会長等の権限と責任については、「明治大学出版会規程」(資料9-51-1, 第4条第3項)に定めている。 会長及び副会長は、「明治大学出版会規程」(資料9-51-1, 第4条第2項)に定めるとおり、適切に選考されている。</p>	<p>「明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ」(資料9-51-2)の制定により、意思決定の迅速化が実現した。</p>		<p>今後も出版会の事業内容や状況に応じて随時見直しを行う。</p>		<p>資料9-51-5 明治大学出版会編集委員会議事録 第8回 2013年3月19日開催 議題1「明治大学出版会編集方針内規の改正について」</p>
<p>(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか</p>							
a	<p>●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。</p>	<p>出版会には、専任職員1名と特別嘱託職員1名が配置されている。 専任職員は会議事務局及び予算、販売、広報を担当、特別嘱託職員は、編集及び広報を担当している。</p>	<p>編集担当者が原稿チェックや執筆者との緊密な連絡を行うなどの作業に専念することが可能となり、専任職員は学内の関連業務の他、広告掲出や販売等に注力することができるようになった。</p>		<p>出版会の事業内容や状況等の多様化が予想されるため、必要に応じて人員配置等の見直しを行う。</p>		

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</p>						
a	<p>◎自己点検・評価を定期的に行い、公表していること 【約400字】</p>	<p>年に1回、運営委員から1名を自己点検・評価担当として選出し、この担当委員を中心に評価報告書を作成している。評価報告書は、本学ホームページ（資料10-51-1）にて公表している。</p>	<p>自己点検・評価を行うことにより、制作体制の見直しが可能となった。その結果、自由度が高まったカバーデザインの変更や広報活動などにより、大学出版会より研究成果を社会に還元したいと希望する教員が増えつつある。</p>		<p>引き続き自己点検・評価の結果を事業内容に反映させる。</p>	<p>資料10-51-1 本学ホームページ 「学部等自己点検・評価報告書」 http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2012/2.html</p>
<p>(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか</p>						
a	<p>●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】</p>	<p>内部質保証の方針と手続については、運営委員会において方針を決定し、編集委員会を中心に、実行している。内部質保証を掌る組織の整備として、運営委員会において、内部質保証に関するチェックを実施している。自己点検・評価の結果は、出版会構成員で共有し、各委員で点検を行い、全学委員からコメントを受けている。また全学的にとりまとめた報告書については、理事長のもとに組織される評価委員会で評価され、その評価結果は、学長に提出する次年度の年度計画に反映させている。さらに編集委員会に学外有識者委員が参加することにより、外部からの視点で刊行企画等を検討している。</p>	<p>運営委員会が予算や事業内容を検証し、編集委員会が刊行企画やデザインなどを検討し、職員の分業体制を明確にすることにより、良質の書籍刊行を効率よく進めることができた。</p>		<p>引き続き、運営委員会での事業内容の検証や、編集委員会での刊行企画検討を厳密に実施する。</p>	
<p>(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか</p>						
a	<p>●PDCAサイクルを回すための、Check(点検・評価)およびAction(改善)の具体的な内容・工夫 <参考:以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など</p>	<p>刊行企画の決定に際しては、編集担当者と選抜編集委員2名が原稿の精査を行い、その結果を編集委員会で審議している。その際の意見は執筆者に報告された上、それに従って期日までに修正原稿が提出されなければ、入稿を許可しない。また、編集委員会の学外有識者委員を加え、企画の選定等の際にその意見を反映させている。</p>	<p>編集委員会において、刊行企画検討の際に、企画書に不備がある場合は再提出を求めると、出版会の理念が適切に実現されていることを検証しつつ、慎重に審議している。</p>		<p>今後は持ち込み企画の数が増加すると見込まれるので、出版会の理念が適切に実現されているか、応募企画の段階で慎重に精査する。それにより刊行物の質の向上を図る。</p>	